

論壇

大きくなる自然の猛威

西日本で大変な自然災害が起きてしまった。これまで経験したことのないような集中豪雨がその原因である。こうした災害への備えを強化することは重要であるが、自然の猛威はますます大きくなるばかりだ。

自然の猛威ということでは、最近、「これまで経験したことのないようなこと」が多くなっている。これまで経験したことのないような規模の台風、あまり経験がないような6月の猛暑など。地球の気候の仕組みがおかしくなってしまったようだ。専門家はこれを地球気候変動と

伊藤 元重 (国際経済学) 大学院教授

呼ぶ。

地球気候変動についての書籍を

読んでみると、改めて、私たちの住んでいるこの地球で大変なことが起きているということがよく分かる。地表の温度が上昇を続けている。だから猛暑日が続くのだろうが、この温暖化で北極の氷が溶け続けている。水面の上昇を続い

て、生物の多様性が脅かされ続けられている。

私たちのこの地球で多くの生物が生存し、適切な気候が維持されているのは、ほとんど奇跡に近い、と指摘する専門家もいる。その地球上の奇跡的なエコシステムが壊れ始め、人間にとって住みにくい方向に地球が動いてい

気候変動まずは関心を

ている。

南方で高熱で海面から水分が蒸発し、それが巨大な台風やハリケーンとなる。海水の酸性化が進み、サンゴ礁の白化などが進んでいる。バクテリアから多様な動植物まで生物の多様性が保持されることなく生態系の持続に必要であるのに、毎年のように絶滅する種が出

る。

こうした議論について、いろいろな反応がある。米国の政治家の中には、そんな危機説は学者の妄想であり、温暖化ガスと地球気候変動の間に明確な関係は証明されていない、という人も少なくない。トランプ政権が温暖化ガス削減についてのパリ協定

から脱退することを決めたのも、そうした政治的な思想が影響している。

別の反応もある。確かに大変なことが起きているのかもしれない。でも、自分たちにできることはあまりない。だから、この現実を受け入れるしかない、というものだ。多くの人がこのような反応なのだろう。だから地球環境に悪影響があるかもしれないと思っても、ガソリン車に乗り、火力発電の電力を利用するの

のは、一方で二酸化炭素(CO₂)などの温暖化ガスの蓄積で大変なことが起こりつつあるということであるが、他方でこれからでも温暖化ガス排出を抑制すれば最悪なことにはならない、ということでもある。

対策 真剣に考える時期

しかし、気候変動の厳しい現実を突きつけられて、そろそろ気候変動への対策について多くの国民が真剣に考える時期ではないだろうか。科学者たちが主張している

より多くの人が、災害や猛暑や異常気象の問題に関心をもち、日々の生活を少しずつ変えていくことが求められている。地球規模での気候変動であるので、地球上のできるだけ多くの人がそれに対応する必要がある。まずは、多くの人がこの問題に関心をもち、どのようなことがこの地球上で起きているのか、科学者たちの説明に耳を傾けるべきだろう。一般市民向けの講演も書籍もたくさんある。この問題に関心をもち、人が増えることを願っている。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。